

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
SHゼミ I			講義 & 演習	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	1年	30時間	川崎 みどり		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
①学校生活を円滑に送るために必要な知識を習得する。 ②クラスにおける各自の役割について理解する。 ③社会人として必要なマナーや一般常識を身に付ける。 ④授業行事に積極的に参加する。			精神科病院での精神科ソーシャルワーカー、 保健所での精神保健相談員、小・中学校での SSWとして実践経験		
【教科書・参考書・教材等】					
適宜、プリント等の資料を配布する。					
【到達目標】					
①学校生活を円滑に送るために必要な知識を習得することができる。 ②クラスにおける各自の役割について理解する。 ③社会人として必要なマナーや一般常識を身に付ける。 ④授業行事に積極的に参加することができる。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、 各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション①: 自己紹介、SHゼミの説明、クラスルームについて、個別面談について		1	オリエンテーション①	
2	オリエンテーション② カリキュラム説明、『学科コミュニケーション』の説明、		2	職場体験のふりかえり	
3	オリエンテーション③ 健康診断の説明、「1年生歓迎企画」のグループ分け		3	学園祭に向けて	
4	オリエンテーション④ 資格取得・検定の説明		4	学園祭に向けて	
5	学生生活について		5	進級に向けて①	
6	「1年生歓迎企画」に向けて		6	進級に向けて②	
7	「1年生歓迎企画」に向けて		7	進級に向けて③	
8	前期コース選択の説明①		8	進級に向けて④	
9	前期コース選択の説明②		9	後期のふりかえり	
10	留学生との交流会に向けて		10	後期のまとめ	
11	テスト勉強について①		11	クリスマスに向けて	
12	テスト勉強について②		12	クリスマス会	
13	前期のふりかえり		13	実習報告会準備	
14	・前期のまとめ・バスレクリエーションについて		14	実習報告会準備	
15	・職場体験実習について・夏期休暇中の留意について		15	実習報告会	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
メンタルヘルスケア			講義	必修	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	1年	60時間	原口 美佐代		
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
学校や職場で必要なメンタルヘルスケアに関する知識や対処方法を習得する。 検定試験に合格するための学習方法について学ぶ。					
【教科書・参考書・教材等】					
メンタルヘルス・マネジメント検定試験 公式テキスト Ⅲ種 セルフケアコース第5版 / (株)中央経済社 メンタルヘルス・マネジメント検定試験 3種セルフケアコース過去問題集〈2024年度版〉 / (株)中央経済社					
【到達目標】					
前期の講義では、メンタルヘルスマネジメントに係る知識を習得することを目標とし、後期の講義ではメンタルヘルス・マネジメント検定試験3級に合格することを到達目標とする。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション		1	オリエンテーション	
2	メンタルヘルスケアの意義		2	過去問題集等を使用しての演習と重要事項の確認	
3	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識①		3	過去問題集等を使用しての演習と重要事項の確認	
4	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識②		4	過去問題集等を使用しての演習と重要事項の確認	
5	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識③		5	過去問題集等を使用しての演習と重要事項の確認	
6	セルフケアの重要性		6	過去問題集等を使用しての演習と重要事項の確認	
7	ストレスへの気づき方①		7	過去問題集等を使用しての演習と重要事項の確認	
8	ストレスへの気づき方②		8	過去問題集等を使用しての演習と重要事項の確認	
9	ストレスへの対処、軽減の方法①		9	過去問題集等を使用しての演習と重要事項の確認	
10	ストレスへの対処、軽減の方法②		10	過去問題集等を使用しての演習と重要事項の確認	
11	ストレスへの対処、軽減の方法③		11	過去問題集等を使用しての演習と重要事項の確認	
12	ストレスへの対処、軽減の方法④		12	過去問題集等を使用しての演習と重要事項の確認	
13	重要事項のポイントチェック		13	過去問題集等を使用しての演習と重要事項の確認	
14	前期試験		14	後期試験	
15	総まとめ		15	総まとめ	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
刑事司法と福祉			講義	選択	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	30時間	原口 美佐代		
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
精神保健福祉士としてソーシャルワークを実践する際に必要とされる「刑事司法と福祉」について学習する。司法福祉の概要について理解するとともに、「司法と福祉の連携」のために精神保健福祉士として担うべき役割等について考察する。					
【教科書・参考書・教材等】					
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座10 刑事司法と福祉 第2版/中央法規出版					
【到達目標】					
精神保健福祉士国家試験合格に必要な知識を身につける。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション 「刑事司法と福祉」総論		1		
2	社会と犯罪 刑罰とは何か		2		
3	医療観察制度の概要①		3		
4	医療観察制度の概要②		4		
5	医療観察制度の概要③		5		
6	更生保護制度の概要①		6		
7	更生保護制度の概要②		7		
8	更生保護制度の担い手		8		
9	少年司法①		9		
10	少年司法②		10		
11	施設内処遇 成人		11		
12	施設内処遇 少年		12		
13	更生保護の実際と今後の展望		13		
14	前期試験		14		
15	総まとめ		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
権利擁護を支える法制度			講義	選択	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	2年	30時間	原口 美佐代		
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
精神保健福祉士としてソーシャルワークを実践する際に必要とされる「権利擁護を支える法制度」について学習する。クライアントの立場に立って考えることのできる人権感覚を身につけることをねらいとする。					
【教科書・参考書・教材等】					
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度 第2版/中央法規出版					
【到達目標】					
精神保健福祉士国家試験合格に必要な知識を身につける。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション		1		
2	ソーシャルワークと法のかかわり①		2		
3	ソーシャルワークと法のかかわり②		3		
4	ソーシャルワークと法のかかわり③		4		
5	法の基礎		5		
6	権利擁護の意義と支える仕組み①		6		
7	権利擁護の意義と支える仕組み②		7		
8	権利擁護活動と意思決定支援①		8		
9	権利擁護活動と意思決定支援②		9		
10	権利擁護にかかわる組織、団体、専門職		10		
11	成年後見制度①		11		
12	成年後見制度②		12		
13	成年後見制度③		13		
14	前期試験		14		
15	総まとめ		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
国家試験対策			講義	選択	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	60時間	原口 美佐代		
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
精神保健福祉士の国家試験合格に必要な基礎知識を習得すること を目標とする。卒業後、働きながら受験勉強を継続する必要がある ことに配慮して、合格するために不可欠な「モチベーションを維持する」 方法や合格するための学習方法を身につける。					
【教科書・参考書・教材等】					
2026精神保健福祉士 国家試験過去問解説集/中央法規出版					
【到達目標】					
精神保健福祉士国家試験に初回受験で合格する。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、 各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説		1	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説	
2	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説		2	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説	
3	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説		3	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説	
4	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説		4	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説	
5	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説		5	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説	
6	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説		6	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説	
7	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説		7	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説	
8	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説		8	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説	
9	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説		9	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説	
10	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説		10	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説	
11	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説		11	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説	
12	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説		12	第23回～第25回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説	
13	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説		13	第25回～第27回の過去問題等を使つての演習と重要事項の解説	
14	前期試験		14	後期試験	
15	前期講義の総まとめ		15	後期講義の総まとめ	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
ソーシャルワーク演習(専門)		講義＆演習	選択	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
医療福祉心理学科	2年	60時間	指崎千尋	○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)	
①ソーシャルワークに必要な価値・知識・技術について、他科目や1年次に学んだ演習等と関連付けて考察し、言語化できる力を涵養する。 ②ソーシャルワーク実習に備え、ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション能力を養う。			社会福祉分野(地域法人、社会福祉協議会等)で実務経験のある教員が科目を担当する。	
【教科書・参考書・教材等】				
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 『最新 精神保健福祉士養成講座 7.ソーシャルワーク演習[精神専門]』中央法規出版				
【到達目標】				
①ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の専門性を理解し、ソーシャルワークとはなにか、を自分の言葉で説明できる。そのために自己理解を深め、利用者を理解しようとする姿勢を示すことができる。 ②グループワークやグループ発表で、自分の考えを順序だてて相手に伝えることができ、ソーシャルワーカーに求められる基本的なコミュニケーションを実践することができる。				
【評価方法と基準】				
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。				
授業への積極的な参加態度と課題提出の期日厳守を重要視して評価する。				
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)				
前期			後期	
1	科目オリエンテーション(演習の目的と概要・ねらい。カリキュラム上の演習の位置づけ等)		1	支援の場に応じた相談援助の理解1(精神医療機関)
2	ソーシャルワークとは演習の意義と目標		2	支援の場に応じた相談援助の理解1(精神医療機関)
3	演習への参加、演習の展開、演習の方法		3	支援の場に応じた相談援助の理解1(精神医療機関)
4	グループディスカッションの意義と目的、グループ形成		4	支援の場に応じた相談援助の理解2(障害者福祉サービス)
5	ソーシャルワーカーとしての自己理解		5	支援の場に応じた相談援助の理解2(障害者福祉サービス)
6	ソーシャルワーカーの自己覚知、専門的援助関係の理解		6	支援の場に応じた相談援助の理解2(障害者福祉サービス)
7	精神保健福祉士の実践における原理・原則		7	支援の場に応じた相談援助の理解3(行政機関・教育機関他)
8	精神保健の歴史的・理解、領域の理解、職業理解		8	支援の場に応じた相談援助の理解3(行政機関・教育機関他)
9	ジグソー法を活用したグループワーク(グループ内での役割分担)		9	支援の場に応じた相談援助の理解3(行政機関・教育機関他)
10	ジグソー法を活用したグループワーク(調べ学習)		10	支援の場に応じた相談援助の理解4(司法・産業労働機関他)
11	ジグソー法を活用したグループワーク(ポートフォリオ・グループ発表)		11	支援の場に応じた相談援助の理解4(司法・産業労働機関他)
12	ソーシャルワークの課題を通じた演習1		12	支援の場に応じた相談援助の理解4(司法・産業労働機関他)
13	ソーシャルワークの課題を通じた演習2		13	まとめ・実習に向けて
14	定期テスト		14	定期テスト
15	科目総括		15	科目総括

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
ソーシャルワーク実習指導			演習	選択	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	60時間	指崎 千尋		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
①第2回目の実習に向けて自分自身の目標と課題を明確にする。 ②報告資料の作成により、俯瞰的に実習の振り返りを行う。 ③報告発表を通じて、プレゼンテーションの技術力を上げる。			都道府県社会福祉協議会等において、地域に向けた社会福祉活動を行っていた。		
【教科書・参考書・教材等】					
荒田寛他編『PSW実習ハンドブック―実習生のための手引き』(へるす出版)2013年					
【到達目標】					
①実習体験を言語化し共有することで、ソーシャルワークとは何かを体系化し、次の実習に活かすことができる。 ②報告資料の作成過程で実習での学びや課題を明確にできる。 ③実践を言語化し、他者に伝えることができる。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	科目オリエンテーション グループワーク(実習の振り返り)		1	2回目の実習の振り返り	
2	グループワーク(実習の振り返り)		2	ソーシャルワーク実習報告書の原稿作成	
3	実習報告PowerPoint作成		3	ソーシャルワーク実習報告書の原稿作成	
4	実習報告PowerPoint作成		4	ソーシャルワーク実習報告書の原稿作成	
5	実習報告PowerPoint作成		5	ソーシャルワーク実習報告書の原稿締切(授業開始時) 実習報告PowerPoint作成	
6	実習報告(発表)		6	実習報告PowerPoint作成	
7	実習報告(発表)		7	実習報告PowerPoint作成	
8	実習報告(発表)		8	実習報告PowerPoint作成(授業終了時締切)	
9	実習報告(発表)		9	実習報告(発表)	
10	実習報告(発表)		10	実習報告(発表)	
11	実習報告集について 実習報告集原稿作成		11	実習報告(発表)	
12	実習報告集について 実習報告集原稿作成		12	実習報告(発表)	
13	2回目の実習に向けて		13	実習報告(発表)	
14	2回目の実習に向けて		14	実習報告の振り返り 実習報告(予備日)	
15	2回目の実習に向けて		15	実習報告の振り返り	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
SHゼミⅢ			演習	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	60時間	指崎 千尋		
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
①学生が学校生活を円滑に送るために必要な知識を習得するとともに、クラスでのそれぞれの役割について理解する。 ②最終学年としての立ち居振る舞いや他者への配慮、良好な関係性について理解する ③社会に出ていくための必要なマナーや一般常識を身に付ける					
【教科書・参考書・教材等】					
適宜、プリント等の資料を用意する。					
【到達目標】					
①学生がクラスでの自分の役割を理解し、円滑なゼミ活動を行うための方策を自ら考える。 ②他者との関係性を理解し、集団のなかでの個性の発揮や、学科全体を通しての対人の処世術を身に着けられる。 ③社会人としての一般的なマナーや常識を理解し、適切に使えるようになる。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション		1	オリエンテーション	
2	学生生活について		2	後期の学生生活について	
3	学生生活について		3	学園祭に向けて	
4	学生生活について		4	学園祭に向けて	
5	健康診断		5	学園祭に向けて	
6	クラス運営・就職活動について (適宜、必要に応じて外部講師を招聘する場合あり)		6	学園祭に向けて	
7	クラス運営・就職活動について (適宜、必要に応じて外部講師を招聘する場合あり)		7	クラス運営・就職活動について	
8	クラス運営・就職活動について (適宜、必要に応じて外部講師を招聘する場合あり)		8	クラス運営・就職活動について	
9	クラス運営・就職活動について (適宜、必要に応じて外部講師を招聘する場合あり)		9	クラス運営・就職活動について	
10	クラス運営・就職活動について (適宜、必要に応じて外部講師を招聘する場合あり)		10	クラス運営・就職活動について	
11	クラス運営・就職活動について (適宜、必要に応じて外部講師を招聘する場合あり)		11	クラス運営・就職活動について	
12	クラス運営・就職活動について (適宜、必要に応じて外部講師を招聘する場合あり)		12	進級に向けて	
13	クラス運営・就職活動について (適宜、必要に応じて外部講師を招聘する場合あり)		13	進級に向けて	
14	クラス運営・就職活動について (適宜、必要に応じて外部講師を招聘する場合あり)		14	進級に向けて	
15	夏季休業中の実習と留意点について		15	進級に向けて	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
ソーシャルワークの理論と方法		講義	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
医療福祉心理学科	1年	60時間	指崎千尋	○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)	
ソーシャルワーク実践の基盤となる諸理論、具体的展開に不可欠な実践モデル、アプローチ、面接、記録方法を学ぶ。さらに実践を豊かにするための理論や方法を学ぶ。			都道府県社会福祉協議会等において、地域に向けたソーシャルワーク活動を行っていた。	
【教科書・参考書・教材等】				
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 12ソーシャルワークの理論と方法』(中央法規出版)				
【到達目標】				
①ひとと環境との相互作用に関する理論と、ミクロ・メゾ・マクロにおけるソーシャルワークについて理解する。 ②ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチについて理解する。 ③ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 ④コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 ⑤ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。				
【評価方法と基準】				
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。				
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)				
前期		後期		
1	オリエンテーション	1	ソーシャルワークの面接①	
2	ソーシャルワーク実践の共通基盤	2	ソーシャルワークの面接② ソーシャルワークの記録①	
3	システム理論・生態学理論	3	ソーシャルワークの記録②	
4	バイオ・サイコ・ソーシャルモデル／ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク	4	ケアマネジメント(ケースマネジメント)	
5	ソーシャルワークの過程 — ケースの発見とエンゲージメント(インテーク)	5	グループワーク①	
6	ソーシャルワークの過程 — アセスメント	6	グループワーク②	
7	ソーシャルワークの過程 — プランニング	7	コミュニティワーク①	
8	ソーシャルワークの過程 — 支援の実施とモニタリング	8	コミュニティワーク②	
9	ソーシャルワークの過程 — 支援の終結と結果評価、アフターケア	9	ソーシャルアドミニストレーション	
10	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①	10	ソーシャルアクション①	
11	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②		ソーシャルアクション②	
12	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③	12	スーパービジョンとコンサルテーション	
13	前期まとめ	13	後期まとめ	
14	前期試験	14	後期試験	
15	前期の振り返り	15	1年間の振り返り	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
学科コミュニケーション交流		演習	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
医療福祉心理学科	3年	30時間	指崎 千尋	
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)	
再上級生としての下級生との適度な関係性、取りまとめ役としてのリーダーシップを学び、実践する				
【教科書・参考書・教材等】				
適宜、資料を配布する。				
【到達目標】				
最上級生としての他学年との関係性を通して、良好な人間関係を体得できる。 最上級生として、お手本になる立ち居振る舞いについて、自分で考え実践できる。				
【評価方法と基準】				
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。				
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)				
前期		後期		
1	オリエンテーション	1		
2	1学年間コミュニケーション	2		
3	多学年間コミュニケーション交流	3		
4	多学年間コミュニケーション交流	4		
5	留学生との交流行事	5		
6	ドッグセラピー	6		
7	後期に向けての準備	7		
8	夏休みに向けて	8		
9		9	学科レクリエーションについて	
10		10	学科レクリエーション	
11		11	学園祭について	
12		12	学園祭について	
13		13	クリスマス行事	
14		14	実習報告会	
15		15	実習報告会	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
就職対策			講義 & 演習	必修	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	30時間	指崎 千尋		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
①志望業種の業界研究、職種の研究を進める。 ②志望先を絞り、法人研究を行う。 ③応募書類の書き方、一般常識、面接練習など実際の模擬就職試験を行う。			都道府県社会福祉協議会の福祉人材センターで、福祉分野の就職を目指す求職者に対する就職支援をしていた。		
【教科書・参考書・教材等】					
・適宜、資料を用意する。 ・実際に法人担当者に来てもらって、説明を受け、質疑応答の練習をする。					
【到達目標】					
①志望業界を理解する。募集されている職種の業務内容を理解する。 ②法人のパンフレット、HP等で法人研究をする。法人の求めに応じた面接の受け答えができるようになる。 ③応募書類や一般常識等で、客観的に自己分析、知識把握ができるようにする。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期		後期			
1	自己分析／法人研究	1			
2	自己分析／法人研究	2			
3	履歴書対策(自己PR)	3			
4	履歴書対策(自己PR)	4			
5	履歴書対策(志望動機)	5			
6	履歴書対策(志望動機)	6			
7	中間まとめ	7			
8	学生時代に力を入れたこと	8			
9	学生時代に力を入れたこと	9			
10	面接対策	10			
11	面接対策	11			
12	個別指導	12			
13	個別指導	13			
14	個別指導	14			
15	振り返り	15			

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
地域福祉と包括的支援体制		講義	必修	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
医療福祉心理学科	3年	30時間	指崎 千尋	○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)	
①地域福祉の理念、歴史、多様な展開を理解し、地域共生社会における包括的支援体制の意義と必要性を認識し、多様なニーズに対応できる基礎的な知識を習得する。 ②福祉計画の意義や策定方法、福祉行財政の仕組みを理解する			都道府県社会福祉協議会等の地域機関において、地域福祉活動を行っていた。	
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 6地域福祉と包括的支援体制』(中央法規出版)				
【到達目標】				
①地域住民のニーズや地域課題を的確に把握し、包括的な視点から適切な支援計画を立案できる。 ②地域共生社会の構築に向けた多様な機関の役割と自分自身の役割を理解し、地域社会に貢献できる。 ③地域福祉計画を読み取る力の涵養や福祉行財政の仕組みに関心を持ち、クリティカルシンキングができるようになる。				
【評価方法と基準】				
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。				
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)				
前期			後期	
1	科目オリエンテーション／ 地域福祉と包括的支援体制を学ぶ意義		1	後期の学習に向けて
2	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題		2	住民の主体形成に向けたアプローチ(1)
3	地域福祉の概念と理論		3	住民の主体形成に向けたアプローチ(2)
4	地域福祉の歴史と動向		4	具体的な展開(1)地域課題への対応
5	地域福祉の推進主体		5	具体的な展開(2)地域課題への対応
6	地域福祉の主体と福祉教育		6	具体的な展開(3)地域課題への対応
7	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制(1)		7	具体的な展開(4)地域課題への対応
8	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制(2)		8	新たな支援モデルの開発
9	地域福祉ガバナンスと多機関協働(1)		9	災害時における支援体制(1)
10	地域福祉ガバナンスと多機関協働(2)		10	災害時における支援体制(2)
11	地域を基盤としたソーシャルワークの方法(1)		11	福祉計画の意義と種類、策定と運用(1)
12	地域を基盤としたソーシャルワークの方法(1)		12	福祉計画の意義と種類、策定と運用(2)
13	前期のまとめ		13	福祉行財政システム
14	前期試験		14	後期試験
15	振り返り		15	振り返り

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
カウンセリング演習Ⅲ			講義＆演習	選択	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	60時間	岡本 大輔		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
カウンセリングのプロセスを体験する。また、さまざまな心理療法にふれることで、体系的にカウンセリングについて知ることを目的とする			心理士として児童養護施設、児童発達支援・放課後等デイサービス、精神科クリニックにて勤務経験あり 現在は私設カウンセリングルームにて心理士として勤務している		
【教科書・参考書・教材等】					
適宜、授業内で紹介します					
【到達目標】					
他者と良好なラポール形成ができるようになる 悩み・問題について多角的なアセスメントができるようになる 導入・主訴の聴取・アセスメント・介入といったカウンセリングの一連の流れを理解する					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション ～カウンセリングと心理療法について～		1	オリエンテーション ～個人・カップル・家族カウンセリング～	
2	カウンセリングの導入(1) ラポール形成と傾聴について		2	カウンセリングの導入(1) ラポール形成・ジョイニングと傾聴について	
3	カウンセリングの導入(2) 主訴の捉え方とアセスメント		3	カウンセリングの導入(2) 主訴の捉え方とアセスメント	
4	主訴の理解と方針について		4	主訴の理解と方針について	
5	ケースの捉え方 さまざまな心理療法について		5	演習①カップルカウンセリング(1)	
6	心理療法について:調査①		6	演習②カップルカウンセリング(2)	
7	心理療法について:調査②		7	演習③家族カウンセリング(1)	
8	心理療法について:共有		8	演習④家族カウンセリング(2)	
9	演習①日常生活の悩み		9	演習⑤児童・思春期へのカウンセリング(1)	
10	演習②アディクション		10	演習⑥児童・思春期へのカウンセリング(2)	
11	演習③抑うつ感・気分の波		11	演習⑦発達相談(1)	
12	演習④不安症		12	演習⑧発達相談(2)	
13	演習⑤強迫症		13	演習⑨検査結果の伝え方・活かし方	
14	演習⑥その他のケース		14	カウンセリングの効果研究について	
15	前期のまとめ・体験の共有		15	後期のまとめ・全体のまとめ	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
社会心理学			講義	必修	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	2年	30時間	岡本大輔		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
・他者とのコミュニケーション、集団での意思決定等を“社会心理学”という視点から考え、理解できるようになる ・社会的リアリティについて理解する			心理師として児童養護施設、児童発達支援・放課後等デイサービス、精神科クリニックにて勤務経験あり 現在は私設カウンセリングルームにて心理士として勤務している		
【教科書・参考書・教材等】					
参考書;適宜授業内で案内します					
【到達目標】					
人がコミュニケーションする中でさまざまな現象が起こりうる。それらの現象について疑問を抱き”なぜそうなるのか”について関心をもてるようになることを到達目標とする。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション～ 事実と現実はどう?～		1		
2	認知バイアス～楽したい人間～		2		
3	傍観者効果～助けてくれない他者～		3		
4	同調行動～暗黙の了解ってなに?～		4		
5	役割取得～人はどこまで非道になれる?～		5		
6	態度～一貫性の落とし穴～		6		
7	原因帰属～テストの結果をどう考える?～		7		
8	対人魅力～外見が全て?～		8		
9	説得的コミュニケーション～詐欺の手口って?～		9		
10	外集団と内集団～愚かな集団～		10		
11	マスメディア・SNS～炎上がおきるのはなぜ?～		11		
12	文化心理学入門～海外と日本は似ている?～		12		
13	心理学の研究って?		13		
14	臨床心理学と社会心理学の接点		14		
15	まとめ		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
心理検査法Ⅱ			講義	選択	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	30時間	岡本 大輔		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
・さまざまな心理検査に触れ、自分のことを理解する ・検査結果の数値を読み取れるようになる ・検査結果の伝え方を考えられるようになる			心理師として児童養護施設、児童発達支援・放課後等デイサービス、精神科クリニックにて勤務経験あり 現在は私設カウンセリングルームにて心理士として勤務している		
【教科書・参考書・教材等】					
適宜、授業内でご紹介します。					
【到達目標】					
さまざまな心理検査の結果を踏まえ、自分の長所・短所を知り”自分の取扱説明書”の作成を目標とする。また、知能検査の結果を読み解き、ケースとして発表できることを目標とする。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション～授業の進め方～		1		
2	質問紙法① TEG・DSQ		2		
3	質問紙法②NEO-PIR・YG		3		
4	質問紙法③CES-D・STAI・LSAS・MAS		4		
5	質問紙法④MMPI(1)実施		5		
6	質問紙法⑤MMPI(2)解釈		6		
7	投影法①PF-スタディ(1)		7		
8	投影法②PF-スタディ(2)		8		
9	投影法③ロールシャッハテスト(1)		9		
10	投影法④ロールシャッハテスト(2)		10		
11	知能検査① グループづくり・実施方法について		11		
12	知能検査②実施と記録		12		
13	知能検査③FSIQと合成得点の算出・解釈		13		
14	知能検査④ケース発表		14		
15	まとめ		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
精神医学と精神医療			講義	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	1年	60時間	岡本 大輔		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
・現代の精神医学と精神医療について学ぶ ・生物-心理-社会的視点からこころのしんどさを理解する ・精神科特有の様々な入院形態や医療観察法などの法制度について学ぶ。			心理師として児童養護施設、児童発達支援・放課後等デイサービス、精神科クリニックにて勤務経験あり 現在は私設カウンセリングルームにて心理士として勤務している		
【教科書・参考書・教材等】					
最新 精神保健福祉士養成講座1「精神医学と精神医療」 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規出版株式会社					
【到達目標】					
・学んだことを他者へ説明できるようになる ・代表的な精神疾患について説明できるようになる ・入院形態について説明できるようになる					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション～ 精神医学とは?～		1	パーソナリティ障害について	
2	脳と心の関係性(1)～知ってる? 脳の役割～		2	知能と知的能力障害	
3	脳と心の関係性(2)～脳とさまざまな症状～		3	神経発達症	
4	さまざまな心の見方		4	療育と制度	
5	器質性精神病について		5	子どもにみられる症状	
6	依存症について		6	薬物療法と精神療法	
7	模擬カンファレンス①		7	精神療法と入院形態	
8	統合失調症について		8	模擬カンファレンス①	
9	気分障害について		9	過去問に挑戦①	
10	神経症性障害(1)～恐怖症・不安症～		10	過去問に挑戦②	
11	神経症性障害(2)～強迫症スペクトラム～		11	精神科通院と実際の関わり	
12	神経症性障害(3)～心的外傷ストレス症・解離～		12	脳と精神疾患	
13	精神医学Q&A		13	精神医学Q&A	
14	模擬カンファレンス②		14	模擬カンファレンス②	
15	前期の振り返り		15	全体のまとめ	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
専門用語			講義	選択	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	2年	30時間	岡本大輔		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
・さまざまな精神疾患に関する知識を得る ・精神疾患への関わり・治療法について知る			心理師として児童養護施設、児童発達支援・放課後等デイサービス、精神科クリニックにて勤務経験あり 現在は私設カウンセリングルームにて心理士として勤務している		
【教科書・参考書・教材等】					
参考書； 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集）『最新 精神保健福祉士養成講座 精神医学と精神医療』 その他の参考書については、適宜、授業内にてお伝えします					
【到達目標】					
・精神疾患や治療法について他者へ説明できるようになる ・専門用語を正しく利用できるようになる					
【評価方法と基準】					
出席（40点満点）、試験、成果発表、課題提出等の総合力（60点満点）の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階（S、A、B、C、D）で評定する。					
【授業計画】（通年科目は、前期・後期とも記載）					
前期			後期		
1	オリエンテーション；専門用語を学ぶ意義		1		
2	心の不調の見方～さまざまな視点～		2		
3	Case1 統合失調症		3		
4	Case2 うつ病		4		
5	Case3 双極性障害		5		
6	Case4 不安症		6		
7	模擬カンファレンス①		7		
8	Case5 強迫症		8		
9	Case7 トラウマ関連障害		9		
10	Case8 パーソナリティ障害		10		
11	さまざまな心理療法①システムズアプローチ		11		
12	さまざまな心理療法②認知行動療法		12		
13	復習		13		
14	模擬カンファレンス②		14		
15	授業の補足		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
パソコン表計算			講義 & 演習	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	2年	60時間	喜納 政美		
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
表計算ソフトである「Excel」を利用し、論理思考による、計算能力を身に付ける。 ビジネスで役立つ技術であることを証明するために、検定試験にも挑戦する。					
【教科書・参考書・教材等】					
EXCEL表計算処理技能認定試験3級問題集2019対応/サーティファイ EXCEL 2019 クイックマスター(応用編) 2版/(株)ウイネット EXCEL表計算処理技能認定試験1.2級問題集2019対応/サーティファイ					
【到達目標】					
前期:Excel表計算処理技能認定試験3級 合格 後期:Excel表計算処理技能認定試験2級 合格					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション クラスルームログイン タイピング Excel基本操作① 自作プリント		1	Chapter1 (クイックマスター応用編)	
2	各回最初にタイピング5分 Excel基本操作② 自作プリント		2	Chapter2	
3	練習問題1(問題集)解説①		3	Chapter2	
4	練習問題1解説②		4	Chapter3・4	
5	関数練習(プリント)解説		5	Chapter5	
6	練習問題2		6	Chapter6・7	
7	関数練習(プリント)解説		7	練習問題1(問題集)解説①	
8	練習問題3		8	練習問題1解説②	
9	模擬問題1		9	練習問題2	
10	模擬問題2		10	練習問題3	
11	模擬問題3		11	模擬問題1	
12	模擬問題4		12	模擬問題2	
13	模擬問題5		13	模擬問題3	
14	定期試験		14	定期試験	
15	タイピング記録提出 解説＋振り返り		15	解説＋振り返り	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
パソコン文書作成			講義 & 演習	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	1年	60時間	喜納 政美		
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
ワープロソフトである「Word」を使い、文書作成能力を身に付ける。 ビジネスで役立つ技術であることを証明するために、検定試験にも挑戦する。					
【教科書・参考書・教材等】					
WORD文書処理技能認定試験3級問題集2019対応/サーティファイ WORD 2019 クイックマスター (応用編)/(株)ウイネット WORD文書処理技能認定試験1.2級問題集2019対応/サーティファイ					
【到達目標】					
前期:Word文書処理技能認定試験3級 合格 後期:Word文書処理技能認定試験2級 合格					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション クラスルームログイン Word基本操作 入力練習 (自作プリント)		1	Chapter3 表の作成 (クイックマスター応用編)	
2	パソコンの基礎 Word基本操作 文書編集 (自作プリント)		2	PowerPoint(自作プリント)	
3	練習問題1(入力)解説①		3	Chapter1 書式の設定	
4	練習問題1解説②		4	Chapter2 文書の構成	
5	練習問題2(入力)		5	Chapter4 見栄えの良い文書作成	
6	練習問題2(入力)		6	Chapter5 縦書き文書の作成 Chapter6 その他の便利な機能	
7	練習問題3(入力)		7	練習問題1(入力)解説①	
8	模擬問題1 (入力データ有)		8	練習問題1解説②	
9	模擬問題2 (入力データ有)		9	練習問題2 (入力データ有)	
10	模擬問題3 (入力)		10	模擬問題1 (入力データ有)	
11	模擬問題4 (入力)		11	模擬問題2 (入力データ有)	
12	模擬問題5 (入力)		12	模擬問題3 (入力データ有)	
13	模擬問題6 (入力)		13	チャレンジ 模擬問題3	
14	定期試験		14	定期試験	
15	解説＋振り返り		15	解説＋振り返り	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
社会福祉の原理と政策			講義	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	60時間	江木 一紀		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
●福祉の視点を習得するとともに理論と哲学について理解する。 ●福祉制度の発展過程と意義や理念を理解する。 ●福祉政策の構成要素と関連政策について理解する。			●スクールソーシャルワーカーとして実務にあたっている。 ●成年後見人等として実務にあたっている。		
【教科書・参考書・教材等】					
最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策/中央法規出版					
【到達目標】					
●社会福祉の専門職としての基本的な視点を獲得する。 ●福祉制度を知り、意義や理念を前提として利用者への活用を促進する姿勢を身に着ける。 ●福祉とその関連政策を理解し、支援者ネットワークを構築するための知識を習得する。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	社会福祉の原理(序章)		1	社会政策におけるニーズと資源(第5章)	
2	社会福祉を学ぶ視点と欧米の社会福祉の歴史的展開		2	福祉政策の構成要素(第6章)	
3	日本の社会福祉の歴史的展開①(第1章)		3	福祉政策の過程と評価(第6章)	
4	日本の社会福祉の歴史的展開②(第1章)		4	福祉政策の動向と課題(第7章)	
5	社会福祉の思想・哲学・理論①(第2章)		5	保健医療政策、教育政策(第8章)	
6	社会福祉の思想・哲学・理論②(第2章)		6	住宅政策、労働政策、災害政策(第8章)	
7	社会福祉の思想・哲学・理論③(第2章)		7	【小テスト】(第5～8章)	
8	現代における社会問題(第3章)		8	福祉サービスの供給(第9章)	
9	【演習】社会問題の背景を考える(第3章)		9	福祉サービスの利用(第9章)	
10	【小テスト】(序章～第3章)		10	【演習】福祉サービスの利用(第9章)	
11	福祉とは何か(第4章)		11	福祉政策の国際比較(第10章)	
12	福祉政策において重要な理念・概念(第4章)		12	【演習】これからの社会福祉(終章)	
13	【小テスト】(第1～4章)		13	【小テスト】(第5章～終章)	
14	学期末試験		14	学期末試験	
15	振返り		15	振返り	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
社会保障			講義	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	2年	60時間	江木 一紀		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
●我が国の住民の生活状況と課題を知り、その支援を図る仕組みとしての社会保障制度を知る。 ●専門職として、クライアントに情報提供し、また制度の活用によって支援するための知識・方法を習得する。			●スクールソーシャルワーカーとして実務にあたっている。 ●成年後見人等として実務にあたっている。		
【教科書・参考書・教材等】					
最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 7 社会保障 第2版/中央法規出版					
【到達目標】					
クライアントの生活支援に必要な社会保障制度について、専門職として情報提供できる水準の知識を習得する。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション ～ 社会保障の観点から見た我が国のあらまし ～		1	前期授業の復習	
2	現代社会と社会保障(第1章)		2	年金保険制度①(第5章)	
3	社会保障の概念と範囲(第2章)		3	年金保険制度②(第5章)	
4	社会保障の役割と意義、理念、対象(第2章)		4	年金保険制度③(第5章)	
5	社会保障制度の展開(第2章)		5	【演習】年金制度	
6	【小テスト第1～2章】		6	労働保険制度①(第5章)	
7	社会保障の財政①(第3章)		7	労働保険制度②(第5章)	
8	社会保障の財政②(第3章)		8	【演習】労働保険	
9	社会保険と社会扶助(第4章)		9	公的扶助(第5章)	
10	医療保険制度①(第5章)		10	社会手当(第5章)	
11	医療保険制度②(第5章)		11	社会福祉制度の概要(第5章)	
12	介護保険制度(第5章)		12	諸外国における社会保障制度(第6章)	
13	【小テスト第3～5章158ページ】		13	【小テスト第5～6章】	
14	前期試験		14	後期試験	
15	まとめ		15	まとめ	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
発達人格心理学			講義	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	1年	60時間	崎田 純		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
発達心理学とパーソナリティ心理学の観点から、人の発達や発達上の問題、パーソナリティの形成について学ぶ。発達やパーソナリティに関する基礎知識の取得を目的とする。			相談室業務・心療内科にて、発達障害児のプレイセラピー及び心理検査を担当。		
【教科書・参考書・教材等】					
教科書:『完全カラー図解 よくわかる発達心理学』渡辺弥生監修 ナツメ社					
参考書:『よくわかるパーソナリティ心理学』吉川眞理編著 ミネルヴァ書房 『よくわかる発達臨床心理学』麻生武・浜田寿美男編 ミネルヴァ書房					
【到達目標】					
①人間の発達とパーソナリティに関する問題について、自らの日常と将来像に結び付けて考えることができるようになる。					
②保育士試験の科目である「保育の心理学」の過去問を概ね解ける水準の知識を身につける。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション		1	オリエンテーション	
2	発達段階(エリクソン、ピアジェ)		2	知能と発達	
3	胎児期・乳児期の発達と気質(1)		3	運動・言語の発達	
4	胎児期・乳児期の発達と気質(2)		4	愛着(アタッチメント)理論	
5	幼児期との発達と気質(1)		5	神経発達障害群(1)	
6	幼児期との発達と気質(2)		6	神経発達障害群(2)	
7	児童期の発達と気質(1)		7	神経発達障害群(3)／小テスト	
8	幼児期の発達と気質(2)／小テスト		8	特別支援教育・療育	
9	社会性・道徳性の発達		9	保育と発達支援	
10	青年期の発達とパーソナリティ(1)		10	保育士保育方針ほか	
11	青年期の発達とパーソナリティ(2)		11	心理検査	
12	成人期・老年期の発達とパーソナリティ		12	こころの健康とパーソナリティ	
13	前期の振り返り		13	後期の振り返り	
14	試験		14	試験	
15	試験返し		15	試験返し	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
こどもの遊び			演習	選択	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	2年	30時間	山崎 久子		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
実習における挨拶、こどものとのかかわり、清掃、記録方法についてなど、実践的な内容を学ぶ。			・公立保育所、小規模保育事業所保育士として勤務 ・聴覚支援学校にて特別支援教諭として幼児教室でのサポートを担当		
【教科書・参考書・教材等】					
各回次ごとに資料を教科担当者より配布する。					
【到達目標】					
実践的な演習をすることにより、具体的なことを習得し、実習現場において活用する。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	教科内容の説明・少子化について		1		
2	訪問初日の挨拶・子どもとのかかわり		2		
3	折り紙・イラスト作成		3		
4	子どもの言語習得について・カードゲーム		4		
5	教科ファイルの作成		5		
6	連絡ノート・日誌について		6		
7	外遊び・諸注意		7		
8	保育用語について		8		
9	あやとり・けんだま		9		
10	子どもとの身体的接触について		10		
11	クイズ作成		11		
12	保育の1日		12		
13	現在の保育現場の状況・課題		13		
14	テスト・日誌作成		14		
15	まとめ・感想		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
保育実技(絵画)			講義＆演習	選択	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	30時間	山崎 久子		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
はさみ、のり、色鉛筆を使用し、絵画制作の技術を学ぶ。			・公立保育所、小規模保育事業等保育士として勤務 ・聴覚支援学校にて特別支援教諭として幼児教室でのサポートを担当		
【教科書・参考書・教材等】					
毎回、担当教員が用意した材料を使用し、課題を制作する。					
【到達目標】					
身近なものを使用し、保育現場だけではなくそれぞれの職場等で簡単な製作物が展示できるようにする。 保育士試験の科目である「絵画」の題目を理解し、演習できるようにする。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	絵画制作の概要 おりがみ		1		
2	制作 色鉛筆画①		2		
3	制作 切り紙		3		
4	制作 ねんど		4		
5	制作 かるた		5		
6	制作 色鉛筆画②		6		
7	制作 七夕飾り		7		
8	制作 うちわ作り		8		
9	制作 紙芝居		9		
10	制作 紙芝居		10		
11	制作 紙芝居		11		
12	制作 紙芝居		12		
13	あやとり		13		
14	制作 色鉛筆画テスト		14		
15	まとめ		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
保育実技(言語)			講義＆演習	選択	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	30時間	山崎 久子		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
社会人・保育者として、子どもの育ちと言葉について考察、検討する。			・公立保育所、小規模保育事業等保育士として勤務 ・聴覚支援学校にて特別支援教諭として幼児教室でのサポートを担当		
【教科書・参考書・教材等】					
担当教員が資料を毎回用意し、提供する。					
【到達目標】					
保育現場での具体的用語を理解する。 面接での言葉遣いの対応を習得する。 保育士試験実技の素話を覚える。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	保育に関する基礎知識 テストについての説明		1		
2	子どもの育ち 言葉の獲得		2		
3	子どもの育ち 教育について		3		
4	子どもの遊び 遊びの形態		4		
5	母子の絆 保育の形態		5		
6	絵本について		6		
7	保育の計画 基本生活習慣		7		
8	食育とは		8		
9	子どもの保健 子どもの生活		9		
10	保育の現場		10		
11	少子化問題について		11		
12	安全 日常における保育の進め方		12		
13	虐待への対応 保育に関する相談		13		
14	素話テスト		14		
15	まとめ		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
Shゼミ			講義 & 演習	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	2年	60時間	山田 妙韶		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
・自主性を身につける ・自身の発見や自己開発			障害者施設や企業、教育機関として相談支援員として従事		
【教科書・参考書・教材等】					
特になし					
【到達目標】					
・自主的に行動できるようになる ・自己発見を通して、自己開発に繋げることができる ・毎回、SHゼミノートを作成する					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、SHゼミノートの提出や授業態度の総合(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション:SHゼミの運営について説明		1	・オリエンテーション ・留学生交流会準備	
2	・諸々の連絡		2	スクールライフアンケート	
3	・1年生歓迎会であることを決める ・1年生へのエールを送る:模造紙にて作成		3	留学生交流会	
4	1年生歓迎会準備		4	学園際準備	
5	1年生歓迎会		5	学園際準備	
6	1年後の自分に手紙を書く		6	学園際	
7	SHゼミでやりたいことを決める:SHゼミ実行委員の進行		7	SHゼミ実行委員企画	
8	学科レクリエーションであることを決める		8	SHゼミ運営	
9	選挙の講義:校長先生		9	クリスマス会であることを決める	
10	学科レクリエーション準備		10	クリスマス会準備	
11	学科レクリエーション		11	クリスマス会	
12	SHゼミ実行委員企画		12	SHゼミ運営	
13	エクセル表計算検定申込み手続き		13	試験勉強	
14	SHゼミ実行委員企画		14	SHゼミノート提出	
15	・SHゼミノート提出 ・留学生交流会であることを決める		15	実習報告会	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
ソーシャルワークの理論と方法(専門)		講義	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
医療福祉心理学科	2年	60時間	山田妙韶	○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)	
以下の項目の理解を目的とする。①精神保健福祉士が対象とする者、②多職種連携における精神保健福祉士の役割、③個別支援からソーシャルアクションへの実践展開におけるミクロ・メゾ・マクロの連続性、④精神保健福祉士以外の実践展開。			障害者施設や企業、教育機関として相談支援員として従事	
【教科書・参考書・教材等】				
・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『7 ソーシャルワークの理論と方法』				
【到達目標】				
本科目の目的を実践レベルで具現化するために、本科目と他の指定科目に係る養成講座の内容を横断的、縦断的に把握し、知識の統合を図ることができる。				
【評価方法と基準】				
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。				
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)				
前期		後期		
1	・オリエンテーション ・社会福祉とは	1	オリエンテーション	
2	・社会福祉とSWの関係 ・SW価値・知識・技術	2	チームアプローチ①	
3	SWの定義	3	チームアプローチ②	
4	SWの展開過程	4	コミュニティワーク①	
5	精神保健福祉分野のSW基本視点	5	コミュニティワーク②	
6	ミクロ・メゾ・マクロのソーシャルワーク	6	精神保健福祉分野における家族支援①	
7	ソーシャルインクルージョン	7	精神保健福祉分野における家族支援②	
8	エンパワメント	8	家族心理教育の準備①	
9	援助関係の技法	9	家族心理教育の準備②	
10	面接技法必要な視点	10	家族心理教育の実施①	
11	・グループワーク ・アウトリーチ	11	家族心理教育の実施②	
12	・ケアマネジメント ・ソーシャルアクション	12	CBT実践例	
13	面接技術(マイクロ技法含)	13	ナラティブアプローチ実践例	
14	前期試験	14	後期試験	
15	ふりかえり	15	ふりかえり	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
ソーシャルワーク演習(専門)		演習	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
医療福祉心理学科	2年	60時間	山田 妙韶	○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)	
ソーシャルワーカーである精神保健福祉士の専門性の基盤を獲得することが目的である。			障害者施設や企業、教育機関として相談支援員として従事	
【教科書・参考書・教材等】				
・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『7 ソーシャルワーク演習』				
【到達目標】				
精神保健福祉士の専門性に基づく実践に必要なソーシャルワークの視点と価値、理論や知識、援助技術を包括的に実践的に習得できる。 ※前期と後期でA班とB班が入れかわる為、前期と後期の授業計画は同じとなる。				
【評価方法と基準】				
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。				
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)				
前期		後期		
1	オリエンテーション	1	オリエンテーション	
2	・演習授業の理解と進め方 ・専門職の成長イメージ	2	・演習授業の理解と進め方 ・専門職の成長イメージ	
3	自己理解・他者理解:ロールプレイ	3	自己理解・他者理解:ロールプレイ	
4	価値と倫理:事例を用いたグループワーク	4	価値と倫理:事例を用いたグループワーク	
5	利用者理解:グループワーク	5	利用者理解:グループワーク	
6	受容・共感:ロールプレイ	6	受容・共感:ロールプレイ	
7	事例検討:事例1(精神科受診相談とインテーク)	7	事例検討:事例1(精神科受診相談とインテーク)	
8	事例検討:事例16(精神医療審査会における退院請求への対応)	8	事例検討:事例16(精神医療審査会における退院請求への対応)	
精神保健福祉士	事例検討:事例8(就労移行支援事業所における措置入院からの就労支援)	9	事例検討:事例8(就労移行支援事業所における措置入院からの就労支援)	
	事例検討:事例12(地域包括支援センターにおける多機関連携による認知症高齢者への危機介入)	10	事例検討:事例12(地域包括支援センターにおける多機関連携による認知症高齢者への危機介入)	
11	事例検討:事例7(相談支援事業所における危機介入からの地域生活支援)	11	事例検討:事例7(相談支援事業所における危機介入からの地域生活支援)	
12	事例検討:事例19(市町村における生活困窮者への地域生活支援)	12	事例検討:事例19(市町村における生活困窮者への地域生活支援)	
13	地域定着支援の事例検討:グループワーク	13	地域定着支援の事例検討:グループワーク	
14	前期試験	14	後期試験	
15	ふりかえり	15	ふりかえり	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
学科コミュニケーション			講義＆演習	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	2年	30時間	山田妙韶		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
・学年の枠を超えて交流する ・自主性や社交性を向上させる ・学科コミュニケーション行事等を通じ後輩の世話や先輩をサポートする			障害者施設や企業、教育機関として相談支援員として従事		
【教科書・参考書・教材等】					
特になし					
【到達目標】					
・学年の枠を超えて交流することができる ・自主性や社交性の向上に向けて努力することができる ・学科コミュニケーション行事等を通じ後輩の世話や先輩をサポートすることができる					
【評価方法と基準】					
・年間15コマ数のうち、10コマ以上の出席をもって2単位に認定となる。 ・10コマに満たない出席の場合でも追試験はせず、単位認定とはならない。 ・ドッグセラピーは任意参加(2コマ分)					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	1年生歓迎会準備		1		
2	2年生歓迎会		2		
3	学科レクリエーション		3		
4			4	留学生交流会	
5			5	学園祭準備	
6			6	学園祭準備	
7			7	学園祭	
8			8	学園祭	
9			9	学園祭	
10			10	学園祭	
11			11	学園祭	
12			12	クリスマス会準備	
13			13	クリスマス会	
14			14	実習報告会	
15			15	実習報告会	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
社会福祉			講義	必修	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	1年	30時間	山田妙韶		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
社会福祉の理念は人々の幸福である。その社会福祉は、今や誰もが関わりをもつ制度として意識されるようになっている。そのような状況のなかで、社会福祉の制度や社会保障がどのようにして人々の幸福の実現を実践しているかを理解する。			障害者施設や企業、教育機関として相談支援員として従事		
【教科書・参考書・教材等】					
・みらい『社会福祉』					
【到達目標】					
社会福祉の制度、社会福祉の実践(ソーシャルワーク)を理解する機会をもつ。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、レポート、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション		1		
2	社会福祉の理念と概念		2		
3	日本の社会福祉の歩み		3		
4	福祉分野の法律		4		
5	地域福祉の推進		5		
6	子ども家庭福祉の法と制度①		6		
7	子ども家庭福祉の法と制度②		7		
8	高齢者福祉の法と制度		8		
9	障害福祉の法と制度①		9		
10	障害福祉の法と制度②、成年後見制度と日常生活自立支援事業		10		
11	社会福祉の施設と専門職		11		
12	社会保障制度①		12		
13	社会保障制度②		13		
14	期末試験		14		
15	ふりかえり		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
日本語表現			講義	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	1年	60時間	山田妙韶		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
文章を書くにあたり、文章内容と文章構成を考え、正しく表現・表記できる力を身につける。			就労系事業所、企業(リワーク)、高校(SSW)における実践経験		
【教科書・参考書・教材等】					
・公益財団法人日本漢字能力検定協会編『基礎から学べる！文章カステップアップ文章検4級対応』 ＜参考書・教材＞ ・日本能率協会マネジメントセンター『文章表現力 基本テキスト』 ・noa出版『レポート・論文作成に役立つ文章表現力』					
【到達目標】					
①学生各々が自身の文章作成能力を把握する。 ②文章を書く上でわからなければ調べるという習慣を身につける。 ③文章内容と文章構成を考え、正しく表現・表記できるようになる。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、ミニテスト、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション		1	オリエンテーション ・メール作成と送受信・返信	
2	文章表現の基本①		2	慣用句①	
3	文章表現の基本②		3	慣用句②	
4	文の規則①		4	四字熟語①	
5	文の規則②		5	四字熟語②	
6	文の規則③		6	敬語表現	
7	文章の基本のまとめ		7	慣用句・四字熟語・敬語表現のミニテスト	
8	文書作成の規則①		8	心を表現してみよう	
9	文書作成の規則②		9	物語をつくってみよう	
10	作文作成①		10	履歴書の作成練習	
11	作文作成②		11	手紙文	
12	作文作成③		12	グリーティングカードの作成	
13	作文作成④		13	試験勉強	
14	前期試験		14	後期試験	
15	前期のふりかえり		15	ふりかえり	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期	
社会学と社会システム		講義	選択	前期	
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	30時間	柴田 惇朗		
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
社会学の基本的な理論、および社会学的考え方を理解すること。 個人と社会の関係や社会問題への視点を養い、対人援助職としての社会との関わり方について考察すること。					
【教科書・参考書・教材等】					
最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 3 社会学と社会システム/中央法規出版					
【到達目標】					
社会学的理論や社会問題を知り、社会学的な考え方に親しむこと。 また、これらの知識を社会で生き、また対人援助の現場において応用可能であると考えられるようになること。 授業内で発言・質問・発表を行う、課題を提出するなどの形で授業に積極的に参加すること。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	授業概説、教科書とその使い方について 教科書概観		1		
2	第1章「社会学の視点」概要		2		
3	第2章「社会構造と変動」概要		3		
4	第3章「市民社会と公共性」概要		4		
5	第4章「生活と人生」概要		5		
6	第5章「自己と他者」概要		6		
7	終章「社会学と社会福祉学の連携・協働」概要 復習の方針について		7		
8	復習: キー概念(社会学者と社会理論①)		8		
9	復習: キー概念(社会学者と社会理論②)		9		
10	復習: キー概念 (社会問題、個人・家族に関する歴史・統計)		10		
11	復習: 過去問対策		11		
12	課題の説明、発表課題の作成		12		
13	生徒発表①		13		
14	生徒発表②		14		
15	全体復習		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
社会福祉調査の基礎		講義	選択	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
医療福祉心理学科	3年	30時間	柴田 惇朗	
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)	
社会福祉調査の目的と方法に親しむこと。 調査の方法論を実践的な状況に応用する訓練を積むこと。				
【教科書・参考書・教材等】				
最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 5 社会福祉調査の基礎/中央法規出版				
【到達目標】				
質的・量的な社会調査の概要を知り、調査の目的と方法を理解すること。 授業内で発言・質問・発表を行う、課題を提出するなどの形で授業に積極的に参加すること。				
【評価方法と基準】				
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、 各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。				
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)				
前期		後期		
1	授業概説、教科書とその使い方について 教科書を読む前の準備	1		
2	第1章「社会福祉調査の意義と目的」、第2章「社会福祉調査における倫理と個人情報保護」概要	2		
3	第3章「社会福祉調査のデザイン」概要	3		
4	第4章「量的調査の方法」概要	4		
5	第5章「質的調査の方法」概要	5		
6	第6章「ソーシャルワークにおける評価」概要	6		
7	復習の方針について 復習:キー概念(社会調査の概要)	7		
8	復習:キー概念(量的調査)	8		
9	復習:キー概念(質的調査)	9		
10	復習:キー概念(データ分析)	10		
11	復習:過去問対策	11		
12	課題の説明、発表課題の作成	12		
13	生徒発表①	13		
14	生徒発表②	14		
15	全体復習	15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
現代の精神保健の課題と支援		講義	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
医療福祉心理学科	1年	60時間	秋山 和雄	○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)	
①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。 ②精神保健の諸課題と精神保健福祉士の役割と専門機関や関係機関との連携について理解する。			地方自治体にて、不登校、ひきこもりの相談、知的障害者施設にて指導員を経験。退職後、ひきこもり親の会カウンセラーとしてひきこもり家族や当事者の支援を行う。	
【教科書・参考書・教材等】				
「現代の精神保健の課題と支援/中央法規出版」を教科書として使用します。それと、最低この2冊「精神保健福祉士の仕事」(朱鷺書房 2012)「心の病気にかかるこどもたち(朝日新聞出版 2022)＜＊いずれも学校の図書室在庫＞を読んでおいてください。ゲストスピーカーとして、統合失調症の方やひきこもり経験者等を授業にお招きします。授業中に資料プリントを配布、その授業で学んだことを「振り返り」に書いて提出。				
【到達目標】				
少子高齢化、国際化、さらには情報が絶えず行きかう変化が激しい「Society5.0」といわれる現代社会では、すべての国民にとって精神保健の維持・増進は重要な課題である。そのため、この授業においては、各ライフステージ(児童期における不登校など)の精神保健の課題とその対策を学び、精神保健福祉士の役割を理解する。さらに、関連機関や職種との連携は、必須の課題であるため、そのあり方も学ぶ。				
【評価方法と基準】				
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。				
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)				
前期			後期	
1	オリエンテーション(講義の趣旨、学習の進め方)		1	学校教育と精神保健学
2	精神保健の基礎知識 ①		2	不登校の歴史とその対策
3	精神保健の基礎知識 ②		3	学校教育といじめ
4	ストレスと精神保健		4	スクールソーシャルワーカーの役割
5	職場におけるメンタルヘルスの課題		5	精神保健と児童虐待
6	生活習慣と依存症		6	社会的ひきこもりをめぐる精神保健
7	発達障害とは		7	グループワーク「ひきこもり」について
8	「【発達障害者】という殻:私のリカバリープロセス」		8	今日のうつ病研究
9	性的マイノリティと精神保健		9	認知高齢者について
10	統合失調症をり患して		10	災害時の精神保健
11	グリーフケア		11	精神保健の歴史と精神保健の3つの側面
12	メンタルヘルスリテラシー教育		12	精神保健福祉に関する専門職の役割と連携①
13	精神障害者支援(リカバリーと当事者研究)		13	精神保健福祉に関する専門職の役割と連携②
14	テスト		14	テスト
15	まとめ		15	まとめ

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
医学概論			講義	必修	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	30時間	小幡 季子		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
人体に触れる者としての基礎知識である正常構造・正常機能と、異常としての疾病を解説する。医療福祉に関わる社会の動向も紹介する。			監察医として従事されている。		
【教科書・参考書・教材等】					
最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 1 医学概論/中央法規出版					
【到達目標】					
目の前のヒトがどのような状態にあるのか、情報を収集し安全が危険か判断できるようにする。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション/解剖学総論/人体の発生・成長		1		
2	ホメオスタシス/循環器系/泌尿器系		2		
3	呼吸器系/免疫系/皮膚		3		
4	消化器系/内分泌系		4		
5	生殖器系/運動器系/神経系		5		
6	健康と医療/生活習慣病		6		
7	循環器疾患/血液疾患		7		
8	腎疾患/新生物		8		
9	感染症/呼吸器疾患		9		
10	消化器疾患/内分泌疾患		10		
11	膠原病/運動器疾患/神経変性疾患/感覚器の疾患/先天性疾患/損傷/中毒		11		
12	身体障害/知的障害/精神障害/認知症		12		
13	高齢者と医療/死と医療/保健衛生事項		13		
14	試験		14		
15	解答解説/総括		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
カウンセリング演習Ⅱ		講義＆演習	選択	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
医療福祉心理学科	2年	60時間	松本 健輔	○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)	
カウンセリング限らず、幅広く対人援助者として、被援助者に対応できるスキルを身につける。			カウンセリングオフィスを開業し、 カウンセリング業務を行っている。	
【教科書・参考書・教材等】				
【到達目標】				
対人援助職者として、自己理解、家族理解、他者理解ができること。さらに、援助職者として、介入をするための土台ができるような知識やスキルの習得を目指す。				
【評価方法と基準】				
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。				
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)				
前期		後期		
1	オリエンテーション		オリエンテーション	
2	一つの質問を広げていく	2	合意形成	
3	面接からレポートの作成	3	説得1	
4	価値観の多様性	4	説得2	
5	ドラマセラピー	5	コンプリメント1	
6	ジェノグラム面接	6	コンプリメント2	
7	ジェノグラムを通して家族を理解する1	7	ゴールを作る1	
8	ジェノグラムを通して家族を理解する2	8	ゴールを作る2	
9	ジェノグラムを通して家族を理解する2	9	ライブセッション	
10	家族面接1	10	公開カウンセリング	
11	家族面接2	11	公開カウンセリング	
12	家族面接3	12	公開カウンセリング	
13	ライブセッション	13	公開カウンセリング	
14	テスト	14	公開カウンセリング	
15	まとめ	15	まとめ	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
保育実技(音楽)		講義＆演習	選択	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
医療福祉心理学科	2年	60時間	神影 亜弥	
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)	
保育士試験に必要な知識を習得する。又、保育士に必要なピアノ演奏の実技、歌唱力を身に付ける。				
【教科書・参考書・教材等】				
この一冊でわかるピアノ実技と楽典・いつでも実践リトミック・こどものうた200・こどもとうたうあそびうた				
【到達目標】				
・基礎的な読譜能力を身に付ける。こどもの歌を正しい音程、リズムで歌え、弾き歌いができるように。 又、保育士試験の科目である保育実習理論の合格。				
【評価方法と基準】				
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。				
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)				
前期		後期		
1	オリエンテーション・音名・楽譜の理解	1	前期の復習	
2	音符・休符・季節の歌・ピアノ実技	2	調に関すること・こどもの歌・ピアノ実技	
3	リズムと拍子・季節の歌・ピアノ実技	3	調に関すること・こどもの歌・ピアノ実技	
4	音楽記号・季節の歌・ピアノ実技	4	移調・こどもの歌・ピアノ実技	
5	異名同音・手遊び歌・ピアノ実技	5	移調・こどもの歌・ピアノ実技	
6	音程・こどもの歌・ピアノ実技	6	こどもの歌・ピアノ実技	
7	音程・こどもの歌・ピアノ実技	7	こどもの歌・ピアノ実技	
8	音程・こどもの歌・ピアノ実技	8	こどもの歌・ピアノ実技	
9	小テスト・こどもの歌・ピアノ実技	9	保育士試験問題の解説・ピアノ実技	
10	和音・手遊び歌・ピアノ実技	10	保育士試験問題の解説・ピアノ実技	
11	和音・こどもの歌・ピアノ実技	11	保育士試験問題の解説・ピアノ実技	
12	和音・こどもの歌・ピアノ実技	12	保育士試験問題の解説・ピアノ実技	
13	和音・ピアノ実技	13	こどもの歌・ピアノ実技	
14	小テスト・こどもの歌・ピアノ実技	14	実技テスト	
15	前期の総復習	15	1年間の総まとめ	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
保育原理			講義	選択	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	2年	30時間	成瀬 弘子		
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
子どもの育ちを育む上での基本的人権意識・発達理解・家庭や社会的背景をふまえつつ、子どもを支援する方法を理解する。保育士の根本的原理を学び子どもの心の理解育ちを理解する。					
【教科書・参考書・教材等					
最新 保育士養成講座 第一巻(保育原理)・・・全国社会福祉協議会					
【到達目標】					
保育所保育指針を中心に子どもの発達を理解しながら、子どもとの関わり方の理解、保護者支援の理解等、実践面での人との関わり方を理解出来るようにする。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	乳幼児と保育理念		1		
2	乳幼児保育の構造と内容の基本		2		
3	権利主体としての乳幼児		3		
4	乳幼児保育の役割と機能		4		
5	保育所保育指針に基づく保育		5		
6	乳幼児の発育・発達を踏まえた保育		6		
7	保育の展開		7		
8	個と集団の育ちと保育士の関わり		8		
9	子ども家庭福祉の法体系と保育の位置付け		9		
10	保育の実施体系		10		
11	諸外国の保育の思想と歴史		11		
12	日本における保育の歴史		12		
13	諸外国の保育の現状と課題		13		
14	テスト		14		
15	日本の保育の現状と課題・総合まとめ		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
手話			演習	選択	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	30時間	西 節子		
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
基本的な手話の習得					
【教科書・参考書・教材等】					
最新版 すぐ使える手話/主婦と生活社					
【到達目標】					
聴覚障がい者と自然に接する感覚 日常会話を身に付ける					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	手話 ろう文化について 挨拶		1	手話 ろう文化について 挨拶	
2	人名漢字 自己紹介		2	人名漢字	
3	数字の表現		3	小テスト 自己紹介	
4	家族 趣味 スポーツ		4	数字	
5	指文字		5	小テスト 家族 趣味 スポーツ	
6	復習(家族紹介)		6	指文字	
7	時制の表現		7	小テスト 復習	
8	疑問詞		8	家族紹介	
9	あいづち		9	小テスト 時制	
10	食べ物 飲み物		10	疑問詞	
11	対で覚える表現		11	小テスト あいづち	
12	都道府県名		12	食べ物 のみもの	
13	総復習		13	小テスト 反対語	
14	試験		14	都道府県名	
15	解説 まとめ		15	まとめ 総復習	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
ソーシャルワークの基盤と専門職			講義 & 演習	必修	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	1年	15時間	川崎 みどり		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
①ソーシャルワーク専門職として必要なソーシャルワークの歴史や基盤を学ぶと共に、価値や倫理、スキルを身につける。 ②現代社会における複雑、多様な生活問題に対応するために関係機関や多職種との連携が必要であることを理解する。			精神科病院での精神保健福祉士、社会福祉士としてのソーシャルワーク実践経験を基に分かりやすく講義を行っていく。		
【教科書・参考書・教材等】					
教科書：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 11 『ソーシャルワークの基盤と専門職(共通・社会専門)』 /中央法規出版、2021年					
講義レジメ・参考資料を配布し、それに基づいて授業を進める。					
【到達目標】					
①ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティを学ぶ。 ②ソーシャルワーク専門職としての基盤となる価値や倫理、スキルを身につけることを重視し、将来ソーシャルワーク専門職としての使命や役割を果たすことのできる土台を作る。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション ソーシャルワーク専門職としての精神保健福祉士		1		
2	社会福祉士及び介護福祉士法 精神保健福祉士法		2		
3	社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性 社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー		3		
4	ソーシャルワークの定義		4		
5	ソーシャルワークの構成要素		5		
6	ソーシャルワークの原理		6		
7	ソーシャルワークの理念		7		
8	ソーシャルワークの源流と基礎確立期		8		
9	ソーシャルワークの発展期、展開期と統合化		9		
10	日本におけるソーシャルワークの形成過程		10		
11	ソーシャルワーカーの専門職倫理		11		
12	倫理綱領の意義、内容		12		
13	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲 多様な組織・機関・団体における専門職		13		
14	期末試験		14		
15	科目のまとめ		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
学科コミュニケーション			講義 & 演習	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	1年	30時間	川崎 みどり		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
新1年生が上級生と関わることによって、先輩との良好な関係性の構築や上級生になった際のロールモデルをイメージできることを目的とする。					
【教科書・参考書・教材等】					
適宜、資料を配布する。					
【到達目標】					
新1年生が上級生と関わることによって、先輩との良好な関係性の構築や上級生になった際のロールモデルをイメージできることを目指す。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション		1		
2	1学年間コミュニケーション		2		
3	多学年間コミュニケーション交流		3		
4	多学年間コミュニケーション交流		4		
5	留学生との交流行事		5		
6	ドッグセラピー		6		
7	後期に向けての準備		7		
8	夏休みに向けて		8		
9			9	学科レクリエーションについて	
10			10	学科レクリエーション	
11			11	学園祭について	
12			12	学園祭について	
13			13	クリスマス行事	
14			14	実習報告会	
15			15	実習報告会	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
現場実習指導			講義 & 演習	選択	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	2年	30時間	川崎 みどり		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
①前期:現場実習に臨むにあたっての心構えを身につけるとともに、個人票・実習計画書・実習日誌等の書き方を学ぶ。 ②後期:現場実習を振り返り、パワーポイントを用いて発表し、明確に伝える力を養成する。			精神保健福祉士、社会福祉士の実務経験を活かして、現場をイメージしながら、分かりやすい講義を行う。		
【教科書・参考書・教材等】					
適宜、講義プリント・演習プリントを配付する。					
【到達目標】					
①現場実習に臨むにあたってのマナー・スキルを身につける。 ②個人票・実習計画書・実習日誌において、適切な表現で記載できる力・事象を考察できる力をつける。 ③現場実習終了後は、パワーポイントを用いて、実習で学んだことや自己の課題を発表できるようになる。 ④自己の適性も踏まえて、進路を明確にする。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション 実習先について		1	現場体験実習の振り返り	
2	対人援助職とは 自己の価値観について		2	パワーポイントでの発表の準備	
3	バイスティックの7原則の理解 1年時の職場体験の振り返り		3	パワーポイントでの発表の準備	
4	バイスティックの7原則の理解 1年時の職場体験の振り返り		4	パワーポイントでの発表の準備	
5	実習生の不安についての事例検討		5	パワーポイントでの発表	
6	個人票、実習計画書等の書類準備		6	パワーポイントでの発表	
7	個人票、実習計画書等の書類準備		7	パワーポイントでの発表	
8	実習日誌の書き方 (以降、模擬日誌の提出を課します)		8	パワーポイントでの発表	
9	実習先についてと自身の目標の発表の方法と準備 について		9	春の現場実習・PSW実習に向けて 保育士試験に向けての勉強・就職活動について	
10	発表準備		10	春の現場実習・PSW実習に向けて 保育士試験に向けての勉強・就職活動について	
11	発表		11	春の現場実習・PSW実習に向けて 保育士試験に向けての勉強・就職活動について	
12	発表		12	春の現場実習・PSW実習に向けて 保育士試験に向けての勉強・就職活動について	
13	実習生としての心構えについて プライバシー保護の重要性和守秘義務		13	春の現場実習・PSW実習に向けて 保育士試験に向けての勉強・就職活動について	
14	お礼状の書き方		14	春の現場実習・PSW実習に向けて 保育士試験に向けての勉強・就職活動について	
15	前期まとめ		15	科目まとめ	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
現場実習指導			講義 & 演習	選択	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	30時間	川崎 みどり		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
①前期:現場実習に臨むにあたっての心構えを身につけるとともに、個人票・実習計画書・実習日誌等の書き方を学ぶ。 ②後期:現場実習を振り返り、パワーポイントを用いて発表し、明確に伝える力を養成する。			精神保健福祉士、社会福祉士の実務経験を活かして、現場をイメージしながら、分かりやすい講義を行う。		
【教科書・参考書・教材等】					
適宜、講義プリント・演習プリントを配付する。					
【到達目標】					
①現場実習に臨むにあたってのマナー・スキルを身につける。 ②個人票・実習計画書・実習日誌において、適切な表現で記載できる力・事象を考察できる力をつける。 ③現場実習終了後は、パワーポイントを用いて、実習で学んだことや自己の課題を発表できるようになる。 ④自己の適性も踏まえて、進路を明確にする。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション 実習先について		1	現場体験実習の振り返り	
2	対人援助職とは 自己の価値観について		2	パワーポイントでの発表の準備	
3	バイスティックの7原則の理解 1年時の職場体験の振り返り		3	パワーポイントでの発表の準備	
4	バイスティックの7原則の理解 1年時の職場体験の振り返り		4	パワーポイントでの発表の準備	
5	実習生の不安についての事例検討		5	パワーポイントでの発表	
6	個人票、実習計画書等の書類準備		6	パワーポイントでの発表	
7	個人票、実習計画書等の書類準備		7	パワーポイントでの発表	
8	実習日誌の書き方 (以降、模擬日誌の提出を課します)		8	パワーポイントでの発表	
9	実習先についてと自身の目標の発表の方法と準備 について		9	春の現場実習・PSW実習に向けて 保育士試験に向けての勉強・就職活動について	
10	発表準備		10	春の現場実習・PSW実習に向けて 保育士試験に向けての勉強・就職活動について	
11	発表		11	春の現場実習・PSW実習に向けて 保育士試験に向けての勉強・就職活動について	
12	発表		12	春の現場実習・PSW実習に向けて 保育士試験に向けての勉強・就職活動について	
13	実習生としての心構えについて プライバシー保護の重要性和守秘義務		13	春の現場実習・PSW実習に向けて 保育士試験に向けての勉強・就職活動について	
14	お礼状の書き方		14	春の現場実習・PSW実習に向けて 保育士試験に向けての勉強・就職活動について	
15	前期まとめ		15	科目まとめ	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
社会的養護			講義 & 演習	必修	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	2年	15時間	川崎 みどり		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
①子どもの権利を中心に据え、社会的養護の概要を学ぶ。 ②社会的養護に関する諸課題を取り上げ、対人援助専門職に求められる、知識・スキルを身につける。			社会福祉士、スクールソーシャルワーカーとして、学校・児童福祉現場におけるソーシャルワーク実践の経験を活かし、分かりやすく授業を展開する。		
【教科書・参考書・教材等】					
教科書：堀場純矢『みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護 I 』(2020)みらい					
適宜、講義でレジュメ・参考資料を配布し、それに基づいて授業を進める。					
【到達目標】					
①子どもの権利と権利擁護、社会的養護に関連する法制度、実施体系等を理解する。 ②支援に必要な知識・技能・技術を修得し、社会的ケアを必要とする子ども・養育者への対応を具体的に考えられるようになる。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション 社会的養護とは何か		1		
2	社会的養護の基本原理とその現状		2		
3	社会的養護の歴史		3		
4	子どもの権利擁護		4		
5	社会的養護の体系と実践		5		
6	社会的養護の領域と概要―養護系施設		6		
7	社会的養護の領域と概要―家庭養護		7		
8	社会的養護の領域と概要―障害系施設		8		
9	社会的養護に関わる専門職・専門機関と倫理		9		
10	社会的養護とソーシャルワーク①		10		
11	社会的養護とソーシャルワーク②		11		
12	社会的養護とソーシャルワーク―事例をもとに		12		
13	施設の運営管理		13		
14	期末試験		14		
15	まとめ		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
職場体験指導			講義 & 演習	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	1年	30時間	川崎 みどり		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
大阪府社会福祉協議会の大阪福祉人材支援センターが行っている職場体験事業、児童分野現場体験事業を活用し、4日間の体験実習を通して、2年次以降のソーシャルワーク実習や現場実習のステップにする。			精神科病院での精神科ソーシャルワーカー、保健所での精神保健相談員、小・中学校でのSSWとして実践経験		
【教科書・参考書・教材等】					
適宜、資料や講義レジュメを配布					
【到達目標】					
①福祉職場の種別や業務形態を理解する。 ②福祉援助の職業人を目指すかどうかを考えることができる。 ③体験実習を実施するために必要な社会マナーや知識、技術を習得できる。 ④実習報告のための資料を作成し発表することができる。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション、職場体験について知る		1	体験の共有・レポート提出	
2	実習について考える		2	実習ノートに基づいて、職場体験で行ったことについて整理を行う	
3	実習生としての心構え		3	実習ノートに基づいて、職場体験で行ったことについて整理を行う	
4	大阪人材センターによるガイダンス		4	実習ノートに基づいて、職場体験で行ったことについて整理を行う	
5	実習先の検討・調査①		5	実習ノートに基づいて、職場体験で行ったことについて整理を行う	
6	実習先の検討・調査②		6	実習ノートに基づいて、職場体験で行ったことについて整理を行う	
7	実習先の検討・調査③		7	職場体験の個人発表①	
8	電話のかけ方、メールの書き方		8	職場体験の個人発表②	
9	ハウレンソウを考える		9	職場体験の個人発表③	
10	コミュニケーションを学ぶ①		10	職場体験の個人発表④	
11	コミュニケーションを学ぶ②		11	個別指導で学んだことをレポートにて報告	
12	コミュニケーションを学ぶ③		12	個別指導で学んだことをグループで共有	
13	実習計画書の作成①		13	福祉援助を職業とすることを考える	
14	実習計画書の作成②		14	2年での実習に向けての準備、目標の設定	
15	前期のまとめ、実習に向けての最終確認		15	科目総括	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
医療事務PC			演習	選択	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	2年	60時間	増井 環美		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
医療事務の点数算定を理解し、カルテ内容を医事コンピュータに入力する技術を身につける。			レセプトコンピューター・電子カルテのベンダーにおいて、インストラクターとして従事していた		
【教科書・参考書・教材等】					
①コンピューター入力練習用 カルテ例題集2025年度版 ②診療ブック 2025年度版 ③診療点数早見表 2025年度版					
【到達目標】					
外来診療の基本的なレセプト入力ができるようになる。 (学習用レセプトコンピュータを使用し、診療報酬の算定方法やコンピュータ入力方法などを学ぶ)					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	自己紹介、講師・授業内容紹介 診療報酬算定について、患者情報と病名登録(練習花子)		1		
2	タッチタイピング練習、カルテ例題集 外来2症例 (武田陽子、平登美子) 課題①配布		2		
3	カルテ例題集 外来2症例		3		
4	カルテ例題集 外来2症例		4		
5	カルテ例題集 外来2症例		5		
6	カルテ例題集 外来1症例		6		
7	カルテ例題集 外来2症例		7		
8	カルテ例題集 外来2症例		8		
9	カルテ例題集 外来2症例		9		
10	カルテ例題集 外来2症例		10		
11	カルテ例題集 外来1症例		11		
12	カルテ例題集 外来1症例、実力テスト外来1症例		12		
13	実力テスト解説、試験対策		13		
14	前期試験(外来2症例)		14		
15	前期試験解説		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
医療事務PC			演習	選択	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	60時間	増井 環美		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
医療事務の点数算定を理解し、カルテ内容を医事コンピュータに入力する技術を身につける。			レセプトコンピューター・電子カルテのベンダーにおいて、インストラクターとして従事していた。		
【教科書・参考書・教材等】					
①コンピュータ入力練習用 カルテ例題集 2025年度版 ②資料ブック ③診療点数早見表					
【到達目標】					
外来と入院診療の基本的なレセプト入力ができるようになる。 (学習用レセプトコンピューターを使用し、診療報酬の算定方法、コンピュータ入力方法などを学ぶ)					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	自己紹介、講師・授業内容紹介、3号森川大介		1		
2	カルテ例題集 外来2症例		2		
3	カルテ例題集 外来2症例		3		
4	カルテ例題集 外来復習		4		
5	カルテ例題集 入院症例について		5		
6	カルテ例題集 入院1症例		6		
7	カルテ例題集 入院続き		7		
8	カルテ例題集 入院1症例		8		
9	カルテ例題集 外来2症例		9		
10	カルテ例題集 外来2症例		10		
11	カルテ例題集 外来2症例		11		
12	カルテ例題集 実力テスト		12		
13	カルテ例題集 実力テスト解説		13		
14	前期試験(外来2症例)		14		
15	前期試験解説		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
カウンセリング概論			講義	必修	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	1年	30時間	大國 智子		
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
ロジャーズの来談者中心療法の理論を基に、カウンセリングを理解する。傾聴の姿勢や態度の理由を知り、支援者のあるべき姿を学ぶ。					
【教科書・参考書・教材等】					
教科書:平木典子著「カウンセリングとは何か 選書586」 / 朝日新聞社					
【到達目標】					
対人援助職に必要な「受容・共感」「ラポール」「傾聴」「カウンセリングプロセス」について説明ができる。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	カウンセリングのイメージ／教科書を読む		1		
2	カウンセリングの歴史／「思い込み」のワーク		2		
3	仕事の領域とカウンセリングの目的／教科書を読む		3		
4	カウンセラーとクライアントの関係		4		
5	傾聴とクライアント尊重		5		
6	ロジャーズの理論「自己理論」		6		
7	自己概念と必要にして十分な条件		7		
8	積極的な関心とラポール／「照合枠」のワーク		8		
9	共感的理解と自己一致		9		
10	カウンセリングの枠「職業倫理」、倫理上の問題を考える		10		
11	カウンセリングの「枠」と倫理綱領		11		
12	カウンセリングの技法、本試験の傾向と対策		12		
13	本試験準備テスト、解説		13		
14	試験		14		
15	本試験の答え合わせ、概論のまとめ、演習のガイダンス、カウンセリングに関する質問大会		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
インテーク面接			講義	必修	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	2年	30時間	中井 美彩子		
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
インテーク(受理面接)についての意義や目的、方法等の基礎知識を学ぶ。また、実際にロールプレイを行い、記録作成を行う。					
講師が適宜資料を作成し配布					
【到達目標】					
聞き取るために必要な基礎知識を理解し、実際にインテーク面接が実施できるようになることを目的とする。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	イントロダクション		1		
2	事例紹介		2		
3	主訴の聞き取り		3		
4	生育歴の聞き取り		4		
5	生育歴の聞き取り		5		
6	病歴の聞き取り		6		
7	家族歴の聞き取り		7		
8	ロールプレイと記録作成		8		
9	ロールプレイ振り返り		9		
10	記録の書き方について		10		
11	ニーズの理解の仕方		11		
12	架空ケース検討		12		
13	ロールプレイと記録作成		13		
14	ロールプレイ振り返り		14		
15	まとめ		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
コミュニケーション演習		講義	必修	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
医療福祉心理学科	1年	30時間	中井 美彩子	
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)	
コミュニケーションの基礎となる自己感覚や他者との距離感を体験的に学び、自己と他者の双方を尊重したコミュニケーションについて理解を深めることを目的とする。				
適宜資料を配布				
【到達目標】				
様々なワークを通じて、心・言葉・身体が一致したコミュニケーション感覚を身につけることを目指す。				
【評価方法と基準】				
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。				
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)				
前期		後期		
1	自己紹介	1		
2	偏愛マップ	2		
3	コラージュ・ワーク1	3		
4	コラージュ・ワーク1振り返り	4		
5	音楽からイメージを膨らませる1	5		
6	音楽からイメージを膨らませる2	6		
7	映画鑑賞『僕が飛び跳ねる理由』	7		
8	呼吸法、タッピング	8		
9	音を形にするワーク	9		
10	フォーカシングワーク1	10		
11	フォーカシングワーク2	11		
12	コラージュ・ワーク2	12		
13	コラージュ・ワーク2振り返り	13		
14	レポート課題	14		
15	全体の振り返り	15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
心理学と心理的支援		講義	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
医療福祉心理学科	1年	60時間	中井 美彩子	
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)	
人の心の仕組みや発達、心の健康、支援技法など、心理学における基本的な知識を学ぶことを目的とする。				
【教科書・参考書・教材等】				
最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援/中央法規出版				
【到達目標】				
支援に必要な心理学の知識を学ぶとともに、自分自身の心の健康にも配慮でき、実践的に役立つ理解を身につけることを目指す。				
【評価方法と基準】				
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。				
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)				
前期		後期		
1	心理学の歴史	1	パーソナリティ理論	
2	研究法と支援方法の発展	2	生涯発達	
3	社会のなかでの心理	3	子どもの発達	
4	日常生活とストレス	4	アタッチメント理論	
5	ストレス反応と心理的不適応	5	心理アセスメント	
6	ストレス対処、レジリエンス	6	ソーシャルワークにおける心理的支援	
7	心の生物学的基盤	7	精神分析	
8	感情、欲求	8	認知行動療法	
9	感覚、知覚	9	家族療法、プレイセラピー	
10	学習、行動	10	虐待、トラウマ	
11	認知、思考	11	災害時における支援	
12	知能と知能検査	12	支援者支援	
13	前期まとめ	13	後期まとめ	
14	試験	14	試験	
15	振り返り	15	振り返り	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
精神保健福祉の原理		講義	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
医療福祉心理学科	2年	60時間	田中 香織	○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)	
精神保健福祉士とは何かを学ぶ国試専門科目であり、精神障害の定義、精神障害者をとりまく環境の歴史と現在を学ぶ。さらに、理念や法律を実践に照らし合わせて学び、精神保健福祉士の役割を理解する。			精神保健福祉士として、NPO法人(地域活動支援センター職員、地域移行支援員など)、精神科病院に勤務し、支援に携わってきた。	
【教科書・参考書・教材等】				
最新 精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の原理/中央法規出版				
【到達目標】				
精神障害者を多角的に知り、精神保健福祉の理念や視点を理解する。これからの精神保健福祉士の役割と可能性を理解する。				
【評価方法と基準】				
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。				
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)				
前期		後期		
1	オリエンテーション	1	オリエンテーション	
2	障害の捉え方と理念	2	日本の精神科医療の特異性	
3	優生思想とは	3	精神障害者の生活	
4	障害者福祉の理念	4	メンタルヘルスをめぐる様々な課題	
5	障害者福祉の理念	5	精神保健福祉士の歴史	
6	障害者福祉の理念	6	精神保健福祉士による実践の価値・原理	
7	精神障害者福祉の歴史的展開	7	精神保健福祉士による実践の価値・原理	
8	日本における排除の歴史と構造	8	精神保健福祉士による実践の視野や視点	
9	日本における排除の歴史と構造	9	精神保健福祉士による実践の視野や視点	
10	諸外国における排除の歴史とその後の展開	10	援助における関係性	
11	精神障害と精神障害者の概念	11	援助における関係性	
12	精神障害と精神障害者の概念	12	精神保健福祉法と倫理綱領	
13	精神障害と精神障害者の概念	13	精神保健福祉士の業務特性と業務指針	
14	前期試験	14	後期試験	
15	試験解説	15	試験解説	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
最新技術の活用と留意点		講義	必修	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
医療福祉心理学科	1年	30時間	藤岡 潔	
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)	
社会ではAIを中心に新しい技術が活用されていること、利用にあたってはマナーを含めたりテラシーが求められることを認識し、様々なツールに触れる。				
【教科書・参考書・教材等】				
授業で使用する資料等は適宜用意。				
【参考資料】				
総務省 生成AIはじめの一步～生成AIの入門的な使い方と注意点～				
内閣サイバーセキュリティセンター 【一般利用者向け抜粋版】インターネットの安全・安心ハンドブックVer 5.10				
【到達目標】				
AIなどの新しい技術の動向を知り、ツールとして安全に活用できるようになる。				
【評価方法と基準】				
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。				
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)				
前期		後期		
1	ガイダンス	1		
2	生成AIの体験①	2		
3	生成AIの体験②	3		
4	生成AIの概要	4		
5	AIの概要	5		
6	AIの体験	6		
7	生成AIの活用①	7		
8	生成AIの活用②	8		
9	まとめと演習①	9		
10	インターネット利用のリスクと対策①	10		
11	インターネット利用のリスクと対策②	11		
12	情報発信・公開のリスクと対策①	12		
13	情報発信・公開のリスクと対策②	13		
14	コミュニケーション上のリスクと対策	14		
15	まとめと演習②	15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称		授業の種類	履修区分	履修時期
ビジネス基礎		講義	必修	通年
学科	学年	授業時数	担当教員名	実務家教員
医療福祉心理学科	1年	60時間	豊田 恭子	○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)	
働くことへの自信を身につける。 社会人としてのマナーを身に付けさせる。			企業において、取締役の秘書としてスケジュール管理や書類作成などに従事していた。 小売、サービス業向けに接客サービス研修を行っていた。	
【教科書・参考書・教材等】				
ビジネス実務マナー検定受験ガイド3級増補版 / 早稲田教育出版 ビジネス実務マナー検定実問題集3級 64～68回 / 早稲田教育出版				
【到達目標】				
11月実施のビジネス実務マナー検定3級の合格を目標とする。 就職活動や実習におけるビジネスマナーを身に付ける				
【評価方法と基準】				
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。				
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)				
前期		後期		
1	教科・評価について・ビジネスマナーとは？ 社会人としての資質・敬語について	1	前期の復習・事務用品・事務機器 敬語練習	
2	敬語・接遇用語・必要とされる資質	2	社内文書	
3	執務要件 * 毎授業時に敬語練習を行う	3	社外文書・社交文書	
4	組織の機能① 敬語練習	4	社外文書・社交文書・検定対策	
5	組織の機能② 敬語練習	5	検定対策	
6	対人関係①人間関係 敬語練習	6	検定対策	
7	対人関係②マナー接遇 敬語練習	7	検定対策	
8	対人関係③服装について 敬語練習	8	検定解答解説・電話対応	
9	対人関係④交際(慶事について) 敬語練習	9	電話対応・伝言メモロープレ	
10	対人関係⑥交際(弔事について) 敬語小テスト	10	模擬文書作成(社交文書)	
11	対人関係⑥交際(弔事について) 敬語練習	11	模擬文書作成(社交文書)	
12	会議についての基礎知識	12	模擬文書作成(お礼状作成)	
13	情報について①	13	模擬文書作成(お礼状作成)	
14	前期試験	14	後期試験	
15	解答・解説・情報について②	15	解答・解説・総復習	

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
ビジネスマナー			講義	選択	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	30時間	豊田 恭子		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
働くことへの自信を身につける。 社会人として医療従事者としての接遇マナーを身に付ける 社会人としてのマナーを身に付けさせる。			企業において、取締役の秘書としてスケジュール 管理や書類作成などに従事していた。 小売、サービス業向けに接客サービス研修を行っ ていた。		
【教科書・参考書・教材等】					
サービス接遇検定公式テキスト 3級・2級/早稲田教育出版 サービス接遇検定実問題集 3級/早稲田教育出版 サービス接遇検定実問題集1級・2級(52～58回)/早稲田教育出版					
【到達目標】					
サービス接遇検定3級・2級(準1級)の合格を目指す					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、 各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	教科・評価について サービス接遇2級模擬問題		1		
2	接遇用語 電話応対		2		
3	職務知識・練習問題		3		
4	一般知識・検定対策		4		
5	マナー接遇・検定対策		5		
6	サービス接遇検定対策		6		
7	サービス接遇検定対策		7		
8	検定自己採点・ビジネス文書作成		8		
9	内定お礼状作成 (サービス準0級対策)		9		
10	内定お礼状作成 (サービス準1級対策)		10		
11	内定お礼状作成 (サービス準1級対策)		11		
12	社会人マナー・模擬文書作成		12		
13	社会人マナー・模擬文書作成		13		
14	前期試験		14		
15	解答・解説・模擬文書完成		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
芸術療法			講義	選択	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	3年	30時間	劉 妮		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
現場で見聞きする可能性のある心理療法の手段である芸術療法について知り、体験を通して、自己理解を深め、他者と向き合う際の心構えを養う。			教育機関・福祉施設において、心理療法として芸術療法を用いている。		
【教科書・参考書・教材等】					
参考書： 芸術療法[新装版] 飯森真喜雄(編)日本評論社 2019. コラージュ療法実践の手引き 森谷寛之(著) 金剛出版社 2012. 絵画テスト 高橋依子(著) 北大路書房 2011. 等					
【到達目標】					
心理療法からレクリエーションまで様々な用いられ方をする芸術の有効性や活用方法、可能性と限界を知り、芸術を媒介したコミュニケーションの中で相手に共感を示すことができる。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	オリエンテーション・絵画療法体験		1		
2	絵画療法～様々な技法～		2		
3	スクイグル(相互なぐり描き法)		3		
4	MSSM(交互なぐり描き物語統合法)		4		
5	コラージュ療法①		5		
6	コラージュ療法②		6		
7	九分割統合絵画法		7		
8	バウムテスト		8		
9	人物画テスト		9		
10	風景構成法		10		
11	箱庭療法① ～理論～		11		
12	箱庭療法② ～実践～		12		
13	箱庭療法③ ～ながめる～		13		
14	これまでの体験について発表 ⇒レポート提出		14		
15	まとめ ⇒提出課題について振り返り		15		

令和7年度 シラバス 兼 授業計画書

科目名称			授業の種類	履修区分	履修時期
精神障害リハビリテーション論			講義	選択	前期
学科	学年	授業時数	担当教員名		実務家教員
医療福祉心理学科	2年	30時間	鈴木 啓介		○
【科目の目的】			実務経験欄(実務家教員のみ記載)		
1. 精神障害リハビリテーションの概念や制度上の役割、プロセスなど知識を理解すること 精神保健福祉士の役割について理解すること			精神科病院 大学病院で勤務し、リハビリテーションに従事した。		
【教科書・参考書・教材等】					
中央法規出版 精神保健福祉士養成講座「精神障害リハビリテーション論」					
【到達目標】					
リハビリテーションの理念、定義、基本原則を理解した上で構成及び展開 実施機関との関連や現状について把握し実習や実務において実践する力を養う事を目標とする。					
【評価方法と基準】					
出席(40点満点)、試験、成果発表、課題提出等の総合力(60点満点)の合計により、100点満点で採点し、各点数に応じて5段階(S、A、B、C、D)で評定する。					
【授業計画】(通年科目は、前期・後期とも記載)					
前期			後期		
1	精神障害リハビリテーションの全体像		1		
2	ソーシャルワークや精神新保健福祉士の役割		2		
3	リハビリテーションの理念 定義 基本原則		3		
4	精神疾患と障害について		4		
5	対象とチームアプローチについて		5		
6	リハビリテーションの展開プロセス(アセスメント モニタリング等)		6		
7	医学的リハビリテーションについて		7		
8	医学的リハビリテーションについて		8		
9	職業的リハビリテーションについて		9		
10	職業的リハビリテーションについて		10		
11	リハビリテーション 実践論(精神科デイケア 就労支援等)		11		
12	社会的リハビリテーション		12		
13	教育的リハビリテーション		13		
14	ピアサポート 家族会		14		
15	学期末試験		15		